

Kammermusikabend mit Rasumofsky Quartett, Wien

ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団を迎えて

室内樂の夕べ

ピアノ：相馬 泉美・岡野 寿子

Izumi Sohma



Hisako Okano



日本オーストリア友好
150周年記念公式コンサート



Rasumofsky Quartett, Wien

2019

12/14 《土》 18:00 開演
(17:30 開場)

アートホール アフィニス

全自由席 ¥4,000

※未就学児のご入場はご遠慮ください。

◎ご予約

ソレイユ音楽事務所 03-3863-5552

チケットぴあ <http://pia/t/>

Web チケットの王様 <http://www.soleilmusic.com>

Program

ハイドン Joseph Haydn
弦楽四重奏曲 ニ長調 Hob.III-63 「ひばり」
Streichquartett D-Dur Hob.III-63 "Lerchen"

ドホナーニ Ernst von Dohnányi
ピアノ五重奏曲 第1番 ハ短調 作品1 (相馬泉美 pf)
Klavierquintett Nr.1 c-moll Op.1

ドヴォルジャーク Antonín Dvořák
ピアノ五重奏曲 イ長調 作品81 (岡野寿子 pf)
Klavierquintett A-Dur Op.81

Kammermusikabend mit Rasumofsky Quartett, Wien

ピアニスト

Pianists

相馬 泉美 Izumi Sohma

青森市生まれ。3才よりピアノを始める。1986年青森県立青森高校卒業。東京音楽大学ピアノ専攻卒業、同大学研究生ピアノ伴奏コース修了。これまでピアノを土田信子、土田正雄、古村義尚、小林仁、三浦捷子の各氏に師事。

1991年第4回やちよ音楽コンクール第2位。1993年ピティナピアノコンペティション特級全国大会奨励賞。1993年より東京、青森などでソロリサイタルを開催。2001年よりウィーンの演奏家との室内楽コンサートに出演し、ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団との共演も数多い。2003年よりNPO法人「音楽ネット青森」主催のコンサートに定期的に出演し、2019年には館野泉氏と三手連弾で共演。2006年より被災地支援のための施設訪問コンサートや、坂本堤弁護士一家メモリアルコンサートに、これまで新潟、宮城、福島など数十か所訪れているほか、小学校などでの音楽鑑賞コンサート企画及び出演、オーケストラとの共演、CDレコーディング、アウトリーチ活動、コンクール審査員など多数おこなっている。2006年「ふたつの舟歌」、2018年「ロマン派の調べ〜ショパンバラード第1番」のピアノソロCDを発売。

1994年より東京音楽大学にて後進の指導に当たっており、現在同大学講師。

岡野 寿子 Hisako Okano

東京芸術大学卒業、同大学大学院修士課程修了後、ウィーン国立音楽大学留学。同大学を首席最優秀賞を得て卒業。ウィーンにてリサイタル、音楽祭に参加等の後帰国、東京文化会館小ホールにてリサイタルの後、東京虎ノ門ホール、イイノホール、津田ホール、青山タワーホール、立川市民会館大ホール、武蔵野市民文化会館大ホール、キララホール（東京あきる野市）、府中の森芸術劇場小ホール等にてソロ・リサイタル、日比谷公会堂、東京都市センターホール、東京文化会館他、日本各地にてオーケストラと協奏曲を共演。第34回日本音楽コンクール入選。

武井恵美子、小島準子、故伊藤裕、故松浦豊明、故W・パンホーフアー、故G・ワァシャヘーリ各氏に師事。

現在までに東京芸術大学、武蔵野音楽大学にて後進の指導にあたる。

日本ピアノ教育連盟、全日本ピアノ指導者協会、日本演奏連盟各会員。

JT アートホール アフィニス ご案内

東京都港区虎ノ門2-2-1 JTビル 2F Tel.03-5572-4945

●虎ノ門駅 東京メトロ銀座線

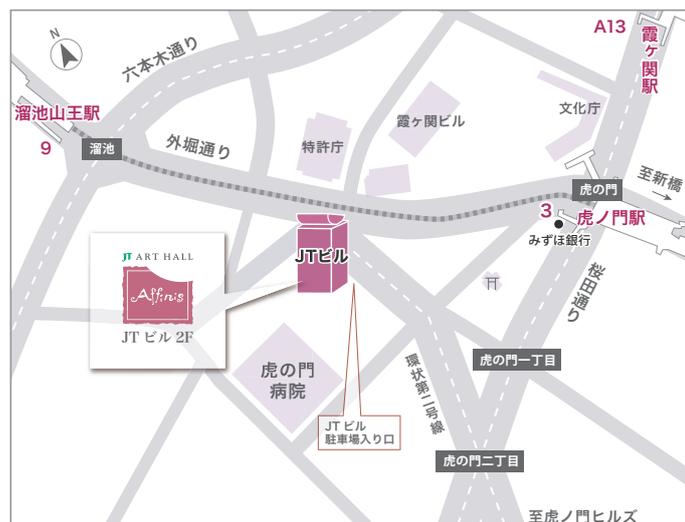
3番出口より、外堀通りを溜池山王方面へ直進、徒歩4分。

●溜池山王駅 東京メトロ銀座線・南北線

9番出口より、外堀通りを虎ノ門方面へ直進、徒歩5分。

●霞ヶ関駅 東京メトロ日比谷線・千代田線・丸ノ内線

A13番出口より桜田通りを虎ノ門方面へ直進し、外堀通りを溜池山王方面へ直進、徒歩7分。



ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団

Rasumofsky Quartett, Wien

●コンサート評より

アンサンブルは緻密で音程の精度が高く、熟練した印象を与える。特にチェロのT.シュスラーは随所で存在感を發揮。冒頭でのハイドンの人気作、二短調作品76-2《五度》では、第1ヴァイオリンのF.ズィーゲルトが短/長調の変化する色彩に機敏な反応を示して聴き応えがあった。
渡辺 和彦 (音楽の友 2016年1月号より)

彼らの庄の少ない繊細な弓さばきから紡ぎ出されるハイドン、モーツァルトは、音色や響きを調和させながら語り、対話し、時にノートイネガルの語尾の変形を駆使しながら、雅なコミュニケーションを音で彫刻する……
小倉多美子 (ムジカノーヴァ 2016年3月号より)

音楽的コンセンサスは練りに練られ、純正律の音程から艶やかな音、透き通る和声、深みのあるユニゾンが生まれる。気がつけば4人とも譜面台から離れていた。
高塚 昌彦 (音楽現代 2016年2月号より)

「ウィーン・ラズモフスキー弦楽四重奏団」は2001年、ウィーン放送交響楽団のトップメンバーたちによって結成。これまで9回の来日では全国各地で公演を行い、その調和のとれた音楽で観客を魅了し、室内楽の楽しさ、素晴らしさを伝え、絶賛を博した。2011年から2人の新しいメンバーを加えて、ますますハイレベルでエネルギー溢れる演奏を披露している。



フランツ・ズィーゲルト

Franz Siegert, 1st Violin

ドレスデンに生まれる。ウィーン国立音楽大学にてクリスチャン・アルテンブルガーに師事し、2009年同大学院修士課程を最優秀で修了。2008年よりG.マーラー青少年オーケストラのコンサートマスターを務め、またバイエルン国立歌劇場及びバイエルン国立オーケストラ、ロンドンフィルのゲストコンサートマスターを務める他、ウィーン国立歌劇場、ウィーンフィルでも演奏する。2009年よりウィーン放送交響楽団コンサートマスターを務める。



スティーヴン・モーラー

Steven Mohler, 2nd Violin

アリゾナ大学、カルフォルニア大学を卒業後、ウィーン国立音楽大学にてクラウス・メッツル、ギンター・ピヒラー両教授に師事。ピクトリア交響楽団（カナダ）、ピアチェンツァ交響楽団（イタリア）のコンサートマスター、またハイデルベルグ市交響楽団、ウィーン室内管弦楽団を経て、現在ウィーン放送交響楽団の第2ヴァイオリン首席を務める。また、ウィーン九重奏団の一員として室内楽でも活躍。



トーマス・ブンバル

Tomas Bumbal, Viola

ブラティスラヴァに生まれる。5歳よりヴァイオリンを始め、ブラティスラヴァ音楽院を経て、2003年ウィーン国立音楽大学を最優秀で卒業。ヴァイオリンをフランツ・サモイ、ヴィオラをハンス＝ペーター・オクセンホーフアーに師事。2003年よりウィーン放送交響楽団の次席ヴィオラ奏者を務める。また平行して室内楽の活動も精力的に行っている。



ティル・シュスラー

Till Schüller, Violoncello

ケルン国立音楽大学にてクルト・ヘルツブルッフ、ウィーン国立音楽大学にてバレンティン・エルベン両教授に師事。その間、室内楽をアマデウス・カルテット、アルバン・ベルグ・カルテットに師事。ウィーン室内管弦楽団首席を経て、現在ウィーン放送交響楽団のチェロ奏者を務める傍ら、マスタークラスなどで後進の指導にも当たっている。